

川崎異業種研究会（以下略称川異研）は、当所会員企業から成る異業種交流のグループです。昭和62年7月に設立され、今年で25年目を迎えます。

川崎異業種研究会のホームページ <http://www.kawaiken.jp/>

9月定例会

平成24年9月13日(木)午後6:15より、川崎商工会議所第5会議室にて、会員25名、オブザーバー1名、見学者1名の参加を得て開催した。

講演に先立ち、川崎商工会議所新会館の竣工を祝して、(川崎異業種研究会より)掛け時計を贈呈した。

続いて、和光大学経済経営学部 和智達也教授を招き、「日本の農業のこれまで、そしてこれから」をテーマに、講演はすすめられた。

(1)『日本農業のこれまで、ここまで脆弱化した理由』について①食料自給率の低さと歪さ・②農業労働力の量的減少と質的低下・③農地面積の減少・④兼業農家の米作りの現状、(2)『これからの日本農業、どのような展望』について①唯一有り余る資源の耕作放棄地の活用方法・②経済行為ではない農業の可能性が



紀中会長から小泉専務理事に手渡される

述べられた。

参加者は、TPP 等も含めて日本の農業を考えさせられる機会となった。

その後、第6会議室に場所を移して懇親会を行い、その後、場所を移して懇親会を行い、終始和やかな雰囲気での親睦を深めた。



和智教授による講演

9月分科会

平成24年9月19日(水)午後6:30~8:30、高津市民館第5会議室にて、会員9名、見学者1名、学生3名の参加を得て開催した。

「会員企業の事業紹介」と「震災後の工場稼働の歩み」をテーマに、株式会社プリント電子研究所 矢浪 裕志取締役会長・矢浪 興造代表取締役社長から説明がされた。

新たに就任した矢浪 興造代表取締役社長からは、専門分野でない事業を承継するまでの具体的な研究や経験が述べられた。

続いて、矢浪 裕志取締役会長からは、東日本大震災に

よる工場再稼働までの道程が語られた。

工場等の直接的被害はなかったものの、原発事故の避難勧告地域により操業は停止し、取引先の需要に応えるべく赤字を出しながら代替地で製造した苦労は、想像を超えるものであった。

また、指定解除後、再稼働の即断は、地元の雇用創出・活性化に寄与し、CSRの本質であると実感した。

今後、防災の観点から会員相互が連携を探る必要性を感じた。



加入のお問い合わせは

事務局：麻生支所 TEL 044-952-1191